



生活
文化



環境
自然

40
まいん

とうなるせったいかんあと

東平接待館跡



昭和10年(1935)撮影
別子銅山記念館所蔵

とうなるせったいかん 東平接待館

は住友の要人や住友にとって大切なお客様のおもてなしをしていたところでした。東平荘とも呼ばれます。

明治41年(1908)10月に着工し、翌年5月に竣工し、同年6月1日から昭和43年(1968)の東平坑閉坑までの59年間利用されました。

工費は当時のお金で17,000円でした。

また、屋根に注目すると、冬の雪が落ちやすくするためのトタン葺きになっていますが、一見、瓦葺きのような造りにしているところに驚きます。

明治43年9月28日からは、コーヒーや角砂糖を接待館に準備しました。



客間(床の間)

昭和10年撮影 別子銅山記念館所蔵



紅葉まぶしい
現在の接待館跡
(11月上旬撮影)

そして、来客用としてビスケットや煎茶も準備しました。

さらに、そのコーヒーは新鮮でなければ風味が良くないということで、わざわざ新居浜の接待館に生豆まで準備して、必要なときに豆を運んでいたということです。

東平接待館には川田順や山口誓子(二人は住友の元社員)、そして土井晩翠といった俳人や歌人の方や各界の著名人が訪れました。

現在、接待館の跡は道が横断しており、当時の様子を伺い知ることは難しくなっています。

しゃくなげ
花期(5月下旬)



とうなる
東平の
山ふところに
石楠花の
花ながめつつ
鶯をきく
土井晩翠



中庭 昭和10年撮影 別子銅山記念館所蔵



建設当時(明治40年代)撮影 別子銅山記念館所蔵

